

各 位

静岡大学大学院農学研究科

本研究科の学生募集要項については、次頁以降に掲載しておりますが、実際の出願にあたっては下記の請求方法により、学生募集要項を入手し、所定の様式により出願をお願いいたします。

記

学生募集要項の請求方法について

(1) 窓口で請求する場合

学生募集要項は農学部学務係で配付します。

(2) 郵送にて請求する場合

定型封筒（長形又は角形）の表の左下に、「大学院農学研究科募集要項請求」と朱書きし、裏面に請求者の郵便番号、住所、氏名を記入の上、次の「返信用封筒」を同封して農学部学務係宛に送付してください。

募集要項は無料ですが、郵送料についてはご負担をお願いいたします。

「返信用封筒」（本学からの募集要項送付用封筒）

- ・規格 角形2号封筒（33cm×23.5cm）
- ・請求者の郵便番号、住所、氏名を明記
- ・200円分の切手を貼り、折りたたんで大学に送付する封筒に入れてください。

(3) 担当窓口及び請求先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

静岡大学農学部学務係

電話（054）238-4815・4816

平成26年度

静岡大学大学院農学研究科(修士課程)

学 生 募 集 要 項

平成25年5月



静岡大学

平成26年度静岡大学大学院農学研究科(修士課程) 学 生 募 集 要 項

◇静岡大学のビジョン◇ 「自由啓発・未来創成」

静岡大学は「質の高い教育と創造的な研究を推進し、社会と連携し、ともに歩む存在感のある大学」を目指します。

(詳しくは、<http://www.shizuoka.ac.jp/outline/vision/mission/index.html> を参照ください。)

◇静岡大学の使命◇

教 育：地球の未来に責任をもち、国際的感覚を備え、高い専門性を有し、失敗を恐れないチャレンジ精神にあふれ、豊かな人間性を有する教養人を育成します。

研 究：世界の平和と人類の幸福を根底から支える諸科学を目指し、創造性あふれる学術研究を行います。

社会連携：地域社会とともに歩み、社会が直面する諸問題に真剣に取り組み、文化と科学の発信基地として、社会に貢献します。

◇農学研究科のアドミッション・ポリシー◇

【育てる人間像】

環境・バイオサイエンスを基礎として衣食住を充足するための学理や技術を深化させた教育と研究を行い、地域や国際社会の持続的発展に貢献できる人材を養成します。

【目指す教育】

1. 地域や国際社会の発展に関わる専門分野について多くの基礎知識とともに、実験・演習を重視した教育研究により応用力を修得します。
2. 職業人・社会人となる際の基本的な素養を修得し、また、関連産業と研究との関係を広く理解することにより、将来の研究におけるバックボーンを形成します。
3. 自然科学における多様な先端的分野に関する知識や、技術者倫理・社会観を総合的に修得し、専門分野だけでなく周辺領域や融合領域を広く学びます。

【入学を期待する学生像】

農学における幅広い基礎知識を有し、研究や技術開発に対する強い意欲のある以下の学生を受け入れます。

1. 環境を重視した持続的な生物資源の生産と利用技術の開発に興味をもち、独創性と応用能力並びに国際感覚を備えた学生
2. 人類生存に直接関わる生物資源や環境問題に強い関心をもち、その解決に貢献しようという使命感あふれる学生

【入学に必要とされる資質・能力】

農学における幅広い基礎知識と志望する分野における専門知識を有し、研究や技術開発に対する強い意欲を持って入学後に勉学及び研究活動を遂行しうる能力を有していることが必要です。このため各専攻において、研究活動に必要な基礎学力を判断する専門科目の学力試験と、研究意欲やコミュニケーション力を判断する面接試験を行います。研究を進めるうえで参考文献を理解することができる外国語の読解力も必要とされます。共生バイオサイエンス専攻の農業ビジネス起業人育成コースでは、専門分野の基礎知識に加え、農業ビジネスへの強い意欲が必要になります。

1 募集人員

共生バイオサイエンス専攻 34名

〔注：うち農業ビジネス起業人育成コース（定員5名）の選抜は12月に行います〕

応用生物化学専攻 35名

環境森林科学専攻 18名

2 出願資格

平成26年3月末日をもって、下記(1)～(9)のいずれかに該当、あるいは該当する見込みの者

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法(昭和22年法律第26号。以下この条において「法」という。)第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする場合には、大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (9) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

(注) 上記(8)～(9)に該当する者については事前審査を行います。該当者は、平成25年5月29日(水)までに必要書類を請求してください。農業ビジネス起業人育成コースに出願を希望する該当者の事前審査については12月募集の時にお知らせします。なお、飛び入学に関する出願資格の適用は12月募集となります。

3 出願手続

(1) 出願期間

平成25年6月10日(月)～6月14日(金)の毎日9時～12時30分、13時30分～16時

郵送の場合は、平成25年6月14日(金)16時までに必着のこと。

(2) 出願方法

出願書類及び検定料を一括とりそろえて出願期間内に下記あて提出してください。

郵送の場合は、必ず「速達・書留」とし、封筒に「大学院出願書類在中」と朱書きとしてください。

(3) 出願書類提出先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学農学部学務係 TEL 054-238-4815～4816

FAX 054-237-9362

4 出願上の注意

- (1) 出願は、志望する専攻の1専門分野のみとします。
- (2) 専門分野と担当教員については、p.9～12の「静岡大学大学院農学研究科修士課程の概要」を参照してください。
- (3) 農業ビジネス起業人育成コースの出願時期は12月募集時(11月初旬)になります。
なお、不明な点については農学部学務係に問い合わせてください。

5 出願書類及び検定料

1	入学志願票	本研究科所定の用紙に必要事項を記入のうえ写真を貼付したもの
2	受験票	本研究科所定の用紙に必要事項を記入したもの
3	成績証明書	出身大学の学長又は学部長が記入作成し、厳封したもの
4	卒業又は卒業見込証明書	出身大学の学長又は学部長が記入作成し、厳封したもの

5	検定料	30,000円は同封の「払込取扱票」により、郵便局の受付窓口で払い込んでください。
6	振替払込受付証明書 (入学検定料受付証明書)	本研究科所定の用紙に必要事項を記入のうえ証明書を貼付したもの
7	あて名票	本研究科所定の「合格通知受信用あて名票」及び「入学手続案内あて名票」に郵便番号、住所、氏名を記入したもの
8	返信用封筒	長型3号の封筒(23.5cm×12cm)に郵便番号、住所、氏名を明記し、350円切手(速達)を貼付したもの
9	住民票	日本国籍を有しない者のみ
10	受験許可書	現在、官公庁・会社等に在職中の者で入学後も在職する場合は、その長が発行したもの
11	学位記の写し又は学位授与証明書	出願資格(2)による学士の学位を授与された者は、学位記の写し又は学位授与証明書を提出すること。なお、見込みの者は、当該「修了見込証明書」及び「学士の学位授与申請(予定)してある旨の証明書」(様式随意:学位が得られなくなった場合は、速やかに通知する旨の記載があるもの)を提出してください。
12	志望理由書 ^(注)	本研究科所定の用紙に必要事項を記入したもの。

(注) 農業ビジネス起業人育成コースの受験者に限ります。

6 入学者選抜方法

専攻	選抜方針及び配点と判定方法
共生バイオサイエンス 専攻	<p>(1) 選抜方針 共生バイオサイエンス分野において、将来、社会の中心的な役割を担う研究者や技術者の育成を目指し、入学後の勉学と研究活動を遂行しうる能力及び学力について、以下の各試験で判断します。 ①学力試験(外国語、専門) 配点:各100点 ②面接試験 配点: 20点</p> <p>(2) 判定方法 ①学力試験、面接試験の評価点を総合して、各専門分野ごとに高得点の者から順に選抜します。 ②学力試験において、各科目の得点がそれぞれ50点に満たない場合は、他の試験の得点に拘わらず不合格とします。 ③面接試験において、10点に満たない場合は、他の試験の得点に拘わらず不合格とします。なお、提出書類は、面接試験の評価の基礎資料として活用します。</p>
農業ビジネス起業人育成コース (12月募集)	<p>(1) 選抜方針 農業をビジネスとして捉え、農業で起業することを目的とする人材の育成を目指し、入学後の勉学と研究活動を遂行しうる能力及び学力について、以下の各試験で判断します。 ①出願書類(志望理由書) 配点:20点 ②学力試験(小論文) 配点:50点 ③面接試験 配点:50点</p> <p>(2) 判定方法 ①出願書類、学力試験、面接試験の評価点を総合して、高得点の者から順に選抜します。 ②上記(1)の、いずれかの評価点が50%に満たない場合は不合格とします。</p>

<p>応用生物化学専攻</p>	<p>(1) 選抜方針 応用生物化学の学問分野や関連産業において、将来、社会の中心的な役割を担う研究者や技術者の育成を目指し、入学後の勉学と研究活動を遂行しうる能力及び学力について、以下の各試験で判断します。 ①学力試験（専門） 配点：50点 ②面接試験 配点：50点</p> <p>(2) 判定方法 ①学力試験、面接試験の評価点を総合して、各専門分野ごとに高得点の者から順に選抜します。 ②学力試験において、25点に満たない場合は、他の試験の得点に拘わらず不合格とします。 ③面接試験において、25点に満たない場合は、他の試験の得点に拘わらず不合格とします。なお、提出書類は、面接試験の評価の基礎資料として活用します。</p>
<p>環境森林科学専攻</p>	<p>(1) 選抜方針 環境森林科学の学問分野や環境、資源、利用などに関連する産業において、将来、社会の中心的な役割を担う研究者や技術者の育成を目指し、入学後の勉学と研究活動を遂行しうる能力及び学力について、以下の各試験で判断します。 ①口述試問（専門） 配点：60点 ②面接試験 配点：40点</p> <p>(2) 判定方法 以下の①の条件を満たした上で、口述試問、面接試験の結果を総合して、合否が判定されます。 ①口述試問と面接試験の得点の合計が60点以上であること。 ②提出書類は、面接試験の評価の基礎資料として活用します。</p>

学力試験科目は外国語と専門科目とし、次のとおりとします。

(1) 外国語は、「英語」です。ただし、外国人^(注1)は日本語を選択できます。

(2) 専門科目^(注2)は、志望する「専門分野」を構成する専門科目のうち1科目を選択してください。

(注1) 出願資格(3)(4)及び外国人留学生として日本の大学を卒業した者及び平成26年3月卒業見込みの者として志願する者。

(注2) 学力試験科目（専門科目）及び口述試問一覧表はp.8のとおりです。

7 試験日時

専攻	期日	時間	項目
共生バイオサイエンス専攻 ^(注)	平成25年7月4日(木)	9:30 ~ 10:30	外国語筆記試験
		11:00 ~ 12:20	専門科目筆記試験
		13:30 ~	面接試験
応用生物化学専攻	平成25年7月4日(木)	11:00 ~ 12:20	専門科目筆記試験
		13:30 ~	面接試験
環境森林科学専攻	平成25年7月4日(木)	9:30 ~	口述試問・面接試験

(注) 農業ビジネス起業人育成コースは12月募集で実施します。

8 試験場所

静岡大学農学部A・B棟（静岡市駿河区大谷836）

9 合格発表

平成25年7月10日(水)（15時発表予定）

静岡大学農学部A棟掲示板に掲示するとともに、農学部ホームページ<http://www.agr.shizuoka.ac.jp>

/にも掲載します。また、合格者に直接郵便にて通知します。

なお、欠員補充は12月募集で行います。

10 確約書の提出

合格者には入学確約書（本研究科所定の用紙）を郵送しますので、本人署名のうえ、平成25年8月2日（金）までに提出してください。期日までに提出されない場合は、辞退したものとして取り扱います。

11 入学手続

平成26年3月に行います。

なお、詳細および必要書類は、平成26年2月下旬に合格者へ別途通知します。

12 入学料及び授業料

(1) 入学料 282,200円《平成25年度実績額》

(2) 授業料 年額 535,800円（半期分267,900円）《平成25年度実績額》

(注)①授業料・入学料の納入方法については、入学手続書類を送付するときに案内いたします。

②本学では、文部科学省の定める標準額に準拠することとしています。在学中に授業料の改定が行われた場合は、改訂時から新料金が適用されます。

13 注意事項

(1) 学力試験、口述試問及び面接試験には、必ず受験票を携帯してください。

(2) 出願後の提出書類の内容変更は認めません。

(3) 一度納入した検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

① 検定料の返還請求ができる場合

ア 検定料を払い込んだが、本学大学院に出願しなかった場合

イ 検定料を誤って二重に払い込んだ場合

ウ 出願書類に不備等があり、出願が受理されなかった場合

② 返還する検定料の金額

志願者本人の申し出により二重払い込み分又は全額を返還します。

③ 検定料返還請求の方法

上記のア又はイに該当する場合は、便せん等を使って、次の1～8を明記した検定料返還請求書を作成し、必ず「郵便振替払込受付証明書（入学検定料受付証明書）」又は「払込金受領証」を添付して、平成25年6月28日（金）〔必着〕まで静岡大学農学部学務係（〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836）へ郵送してください。

ウの場合は、出願書類返却時に「検定料返還請求書」を同封しますので、必要事項を記入の上郵送してください。

静岡大学大学院入学検定料返還請求書

- 1 返還請求の理由
 - 2 入試区分（一般入試、社会人入試、外国人留学生入試等）
 - 3 出願しようとした大学院研究科専攻名
 - 4 氏名（フリガナ）
 - 5 現住所（フリガナ）
 - 6 連絡先電話番号
 - 7 返還請求額
 - 8 返還金振込先・金融機関名（郵便局は不可）、支店名
 - ・預金種別（当座・普通）、口座番号
 - ・口座名義人（フリガナ）
 - ・口座名義人が志願者と異なる場合は、志願者との続柄
- なお、返還に係る振込手数料は請求者の負担とします。

東日本大震災により被災した入学志願者に係る入学検定料の特別措置

東日本大震災により被災した志願者の入学検定料について、志願者からの免除申請に基づき入学検定料の全額を返還します。

詳しくは、「静岡大学 入学志願者の入学検定料の特別措置について」をご覧ください。

(http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_examin2013.html)

(4) 合格者のうち、官公庁又は会社等に入学後も在職する者は、入学手続きの際その長又は代表者の就学承認書を必要とするのであらかじめ用意しておいてください。

(5) 出願書類の請求及び入学試験に関する照会等は、p. 2の「3出願手続の(3) 出願書類提出先」あて郵便で行ってください。

なお、出願書類の請求にはあて先を明記した返信用封筒〔角形2号封筒(33cm×24cm)〕に140円切手を、入学試験に関する照会には定形封筒に80円切手を貼付したものを送付してください。

(6) 願い出により入学科・授業料を免除することがありますが、詳細は合格者に案内します。

14 障害等のある入学志願者の受験特別措置

障害等のある入学志願者で、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願する前に本研究科と相談する必要がありますので、下記により申請してください。

相談の結果は決定次第、本人に連絡します。

なお、申請前に本学のキャンパス（設置場所、環境等）を見学しておくことをお勧めします。

申請期限	原則として出願の1か月前まで
申請の方法	『大学院受験特別措置申請書』に、『障害者手帳』の写し又は医師の『診断書』を添えて申請してください。 なお、必要な場合は、本人又はその立場を代弁できる方（保護者、出身学校関係者等）との面談を行うことがあります。
連絡先	〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学農学部学務係 TEL 054-238-4815 FAX 054-237-9362

大学院入試情報の提供

入試情報の開示 当該年度の修士課程における受験者で、不合格者に対して試験成績の開示申請を、7月に行われる入試では平成25年11月15日（金）から12月16日（月）まで受け付けます。詳細は、本学学務部教務課までお問い合わせください。

教務課大学院係 TEL 054-238-4332（直通）
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

入試問題の閲覧 大学院の過去の問題については、農学部学務係及び入試情報閲覧室で閲覧することができます。

なお、農学部学務係では、著作権者からの同意が得られた場合は、複写できます。

個人情報の取扱い

個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「静岡大学個人情報管理規則」に基づいて、次のとおり取り扱います。

1. 出願書類に記載された個人情報については、(1)入学者選抜（出願処理、選抜実施）、(2)合格発表、(3)入学手続業務を行うために利用します。
2. 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。
3. 入学者の個人情報については、(1)教務関係（学籍、修学指導等）、(2)学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）、(3)授業料徴収に関する業務を行うために利用します。
4. 上記1. 及び2. の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下、「受託業者」という。）において行うことがあります。受託業者には、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、個人情報の全部又は一部を提供します。

各専門分野の試験科目一覧表

		専 門 分 野	試 験 科 目
共生 バイオサイ エンス専攻	農学バイオサイ エンス	果樹園芸学	果樹園芸学
		野菜園芸学	野菜園芸学
		花卉園芸学	花卉園芸学
		資源植物繁殖学	植物繁殖学
		植物遺伝学	植物分子生物学
		応用昆虫学	応用昆虫学
		植物病理学	植物病理学
		収穫後生理学	収穫後生理学
		植物生産管理学	果樹機能開発学
		分子進化・情報生物学	情報生物学
		遺伝子工学	遺伝子工学
	人間環境科学	生態学	生態学
		バイオマス・水環境科学	バイオマス及び水環境科学
		環境微生物学	環境微生物学
		持続可能型農業科学	持続可能型農業科学
		農業経営学	農業経済学
		循環共生社会学	循環共生社会学
		生命環境倫理学	生命環境倫理学
	環境社会学	環境社会学	
農業ビジネス起業人育成コース ^(注)		小論文	
応用生 物化学専攻	応用生物化学	天然物有機化学	有機化学
		生物化学	生化学
		食品栄養化学	食品栄養化学
		生物工学	生物工学
		応用微生物学	応用微生物学、微生物化学
		細胞生物学	細胞生物学
		動物生理学	動物生殖生理学
		植物機能生理学	植物栄養学、植物機能利用学
環境森 林科学専攻	森林圏環境学	林業工学	口 述 試 問
		造林学	
		広域生態学	
		森林防災工学	
		森林学	
	生活圏環境学	木材接着学	
		改良木材学	
		木材化学	
		木材物理学	

(注) 12月募集

静岡大学大学院農学研究科修士課程の概要

共生バイオサイエンス専攻

専攻の内容

本専攻は、持続可能型生産活動への要望に応えるために、生物生産（農学バイオサイエンス）と環境（人間環境科学）のいずれかの専門領域に軸足を置きながらも、他方の専門分野のセンスを持ち合わせた、これまでにない研究者又は職業人養成を目指して教育・研究を行います。

また、本専攻内には、企業人や農業経営者を対象とした農業ビジネス起業人育成コースを設け、先進的な農業経営者として必要な農業ビジネスの基礎から応用まで幅広い知識を習得した人材の育成も行います。

	専門分野	担当教員	主要授業科目	現在の研究内容
農学 バイオサイエンス	果樹園芸学	准教授 向井啓雄	果樹園芸学特論 果樹園芸学演習	環境要因を中心とした果樹生育の生理生態 果実の成熟生理
	野菜園芸学	教授 糠谷 明 准教授 切岩祥和	野菜園芸学特論 野菜園芸学演習	太陽光型植物工場における果菜類の省力化、 高生産性技術の構築と経済性の実証 高品質野菜生産を目指した栽培技術の開発
	花卉園芸学	教授 大野 始 助教 中塚貴司	花卉園芸学特論 花卉園芸学演習	花卉の開花調節、生理障害、花色発現および遺伝子操作
	資源植物繁殖学	教授◇原田 久	植物繁殖学特論	植物の生殖生理及び組織培養
	植物遺伝学	教授◆大村三男 准教授 本橋令子	植物遺伝育種学特論 植物分子遺伝学特論	植物のゲノム解析 植物の葉緑体研究
	応用昆虫学	教授 西東 力 准教授 田上陽介	害虫防除学特論 害虫防除学演習	侵入害虫の生物的防除法の研究 害虫と天敵の相互作用を利用した害虫防除の開発 昆虫共生微生物に関する研究
	植物病理学	教授 瀧川雄一 (注1) 准教授 平田久笑	植物病原細菌学特論 植物病理学特論	植物病原細菌の分類・進化 植物と病原細菌との分子相互作用
	収穫後生理学	准教授 山脇和樹 准教授 加藤雅也	収穫後生理学特論 収穫後生理学演習	青果物の収穫後生理、貯蔵、流通の生理 収穫後の園芸作物（果実、野菜、花）の生理学、 生化学、分子生物学
	植物生産管理学	助教 浅井辰夫 助教 八幡昌紀	果樹園芸学特論	環境保全型水稻栽培の研究 果樹の結実生理 染色体工学手法を利用した高品質果樹の開発
	分子進化・情報生物学	准教授 堀池徳祐	Advanced Plant Production II	大量遺伝子情報を用いた系統解析
遺伝子工学	教授 富田因則 (注2)	未定	遺伝子工学による植物ゲノムの改変	

人間環境科学	生態学	教授 澤田 均 教授 山下雅幸	生態学特論 保全生物学特論	植物の生態、生態遺伝とそのアグロエコシステムへの応用 外来植物および雑草の侵入生態学
	バイオマス・水環境科学	教授◆鈴木恭治 教授 釜谷保志 准教授 渡邊 拓	環境生物素材学特論 生態影響評価学特論 住環境科学特論	生物素材の利用及び機能化、紙資源リサイクル 化学物質の水環境影響評価 室内空気中に存在する様々な物質の評価
	環境微生物学	教授 小川直人 准教授 鮫島玲子	環境微生物学特論 環境微生物学演習	細菌の芳香族化合物分解機構及び環境応答機構 土壌における窒素循環に関わる微生物に関する研究
	持続可能型農業科学	准教授 南雲俊之	持続可能型農業科学特論	農業生態系における物質循環、農業と水質保全、有機栽培と緑肥利用
	農業経営学	准教授 柴垣裕司	農業経営経済学特論	農協活動の総合効果、農業・農村金融
	循環共生社会学	准教授 野上啓一郎	環境情報学特論	物質循環・エネルギー循環・社会循環
	生命環境倫理学	教授 竹之内裕文	生命環境思想 生命環境思想演習	人間の死生、農の営み、自然保護など、生命（人間）と環境（土地）のかかわりをめぐる諸課題の哲学的な考察
	環境社会学	助教 富田涼都	環境社会学特論 環境社会学演習	フィールド研究に基づく、環境と社会の関係性にかかわる理念や政策の検討

農業ビジネス起業人育成コース (12月募集)	教授 糠谷 明 准教授 柴垣裕司 准教授 切岩祥和 他	植物工場論 経営管理技術特論 栽培技術特論	既述（6. 入学者選抜方法参照）
---------------------------	--------------------------------------	-----------------------------	------------------

平成25年5月1日現在

◆印の教員は平成26年3月31日で定年退職の予定です。

◇印の教員は平成27年3月31日で定年退職の予定です。

(注1) 創造科学技術大学院教員

(注2) グリーン科学技術研究所教員

応用生物化学専攻

専攻の内容

本専攻は、微生物、植物及び動物資源を効率的に活用して高付加価値物質を開発するとともに、生物の持つ様々な機能の制御機構を細胞・分子・遺伝子レベルで解明することを目標として、バイオサイエンスやバイオテクノロジーについての高度な学理と技術を国際的な視野から教育・研究をしています。

	専門分野	担当教員	主要授業科目	現在の研究内容
応 用 生 物 化 学	天然物有機化学	教授 轟 泰司 准教授 大西利幸	天然物有機化学特論	開花制御と香気生成の生物有機化学 木本科植物生理活性物質生合成・代謝機構の解明 植物ホルモンの生合成・受容・代謝に関わる鍵酵素の化学的制御及び植物ストレス耐性付与技術の開発
	生物化学	教授 河岸洋和 (注) 准教授 村田健臣 准教授 平井浩文	生物化学特論	生物の産生する生体機能調節物質の生化学・有機化学 糖質関連酵素の機能解明と生理活性糖鎖分子の構築 担子菌の有するリグニン分解能及び環境汚染物質分解能に関する生化学及び分子生物学的研究
	食品栄養化学	教授 森田達也 助教 日野真吾	食品栄養化学特論	食物繊維の脂質・糖質代謝および腸管免疫機能に関する研究
	生物工程学	教授 朴 龍洙 (注) 助教 加藤竜也	生物工程学特論	生物の機能に基づくカイコバイオテクノロジー ナノマテリアルの相互作用解析及びバイオチップ化
	応用微生物学	准教授 徳山真治 助教 小谷真也	応用微生物学特論	有用酵素の機能と構造に関する解析とその応用 新規微生物機能の探索とその利用 微生物の産生する有用物質とその生産制御の研究
	細胞生物学	教授 鳥山 優 准教授 茶山和敏 准教授 笹浪知宏	細胞生物学特論	棘皮動物の色素形成機構に関する研究 乳腺細胞の増殖、分化および機能に関する研究 種々の疾病発症に対する食品成分の効果および社会ストレスの影響に関する研究 脊椎動物の卵膜形成に関する分子細胞生物学的研究 受精の分子機構の解明と繁殖制御への応用
	動物生理学	教授◆森 誠 教授 高坂哲也 准教授 與語圭一郎	動物生理学特論	脊椎動物の排卵機構に関する内分泌生化学 生殖機能系細胞の分化・機能を司る制御因子群の分子動態・シグナリング機構の解明、生殖細胞で特異発現する遺伝子の高次機能解析、これら基盤研究に基づく受胎性向上を目指した生殖工学技術の創成
	植物機能生理学	教授 森田明雄 教授 原 正和 (注) 助教 一家崇志	植物機能生理学特論	植物の窒素代謝特性と耐酸性機能の解析とその制御方法に関する研究 植物における非生物的ストレス耐性の向上技術に関する研究 植物のイオンストレス応答特性とその耐性機構に関する研究

平成25年5月1日現在

◆印の教員は平成26年3月31日で定年退職の予定です。

(注) グリーン科学技術研究所教員

環境森林科学専攻

専攻の内容

本専攻は、森林の多様な機能の解明、その機能の増進、機能の持続的利用、特に木質材料の高度有効利活用に資するため、基礎科学、応用科学の幅広い分野の手法を用い、森林科学、木質科学及びそれらの有効利用に関する幅広い先端的な知見を得るとともに、グローバルな視野に立って問題解決ができる高度専門技術者の育成を目指した教育・研究を行います。

	専門分野	担当教員	主要授業科目	現在の研究内容
森 林 圏 環 境 学	林業工学	准教授 近藤恵市	林業工学特論	木材伐出を中心とした林内諸活動の工学的諸問題
	造林学	教授 水永博己 助教 檜本正明	造林学特論	森林の林冠構造と森林生態系管理技術・天然林の動態センサ 樹木の環境応答・適応機構
	広域生態学	准教授 王 権	Advanced Forest Ecology	生理生態学及びリモートセンシングの結合・流域レベルでの炭素・水平衡モデル
	森林防災工学	教授 土屋 智 准教授 逢坂興宏 准教授 今泉文寿 准教授 牛山素行 (注)	山地水文学特論 砂防工学特論	森林の水循環過程とその物理機構並びに定量化 森林の防災機能とその評価 山地流域における土砂移動現象の解明
	森林学	准教授◇藤本征司	森林景観生態学特論	樹木の形態や生態の比較、それを通じた森林の動態や景観の分析
生 活 圏 環 境 学	木材接着学	准教授 山田雅章 助教 田中 孝	高分子複合材料科学特論	接着剤ポリマーの物性と接着機構、並びに接着性能、室内空気質の分析 環境対応型接着剤の開発と接着メカニズムの解明
	改良木材学	教授 鈴木滋彦 准教授 小島陽一	改良木材学特論 木質バイオマス科学特論	再構成木質材料の製造とその材質評価 木質バイオマスの有効利活用に関する研究
	木材化学	教授◇西田友昭 教授 河合真吾 助教 米田夕子	木材化学特論 木質生化学特論	リグニン生分解機構の解明、リグニン分解菌による環境汚染物質の分解 樹木二次代謝成分の生理活性と生合成機構 セルロースおよびその誘導体の化学
	木材物理学	教授 安村 基 助教 小林研治	木質構造学特論 木質構造学演習	木造建築物の地震時挙動の解析と評価 木質構造接合部の弾塑性解析

平成25年5月1日現在

◇印の教員は平成27年3月31日で定年退職の予定です。

(注)防災総合センター教員

大学院入学試験に関する問い合わせ先

静岡大学農学部学務係 (〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836)

TEL 054-238-4815, 4816

FAX 054-237-9362